

5/8 子ども達のために消毒液を届けたい

次亜塩素酸水寄贈



※面談はマスク着用で行いました

市内在住の小野寺寛治^{かんじ}氏から、消毒用のアルコール製品の不足を受け、「次亜塩素酸水」910ℓが寄贈されました。小野寺氏が所有する生成装置により電気分解で生成された次亜塩素酸水です。

市内小中学校、学童保育館や市営バスなどに配布し、幅広く活用されました。

手作りマスクで感染症予防

那須野農業協同組合 手作りマスク寄贈

5/11

マスクが手に入らない状況が続いている中、新型コロナウイルスの感染症予防に役立ててもらいたいと、那須野農業協同組合の女性会とひまわり会の会員の方から、それぞれの自宅で作成した手作りマスクが寄贈されました。

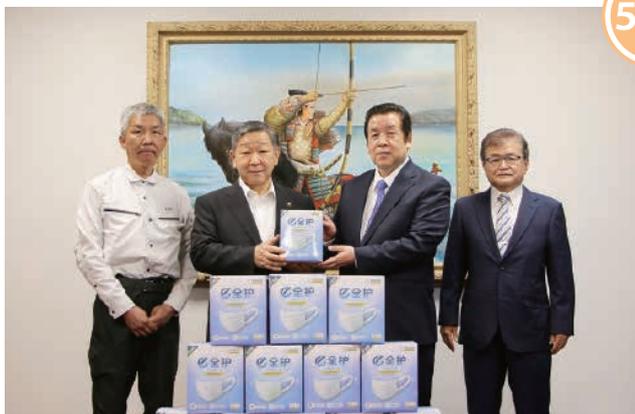
寄贈していただいた手作りマスクは、市内の公立保育園の園児へ配布されました。



5/12

地域貢献のために

大田原市建設業協同組合 マスク寄贈



※面談はマスク着用で行いました

大田原市建設業協同組合より、新型コロナウイルス感染症の予防と拡大防止の一環として、マスク1,040枚が寄贈されました。

当日は、佐藤憲一 理事長から津久井市長にマスクが寄贈され、障害福祉サービス事業所などに配布し、活用されました。

新型コロナウイルスと戦う医療現場へ

飛沫感染を防ぐ自作の簡易型フェイスシールドを寄贈

5/18

市内に工場がある櫻護^{さくらごも}株式会社大田原製作所(実取)の社員エイ・チャン・アウン氏より、新型コロナウイルス感染症対策に取り組む医療現場を支援すべく自作のフェイスシールド 100個が寄贈されました。

感謝と応援の気持ちと共に市内医療機関に届けられました。



5/18

浴衣地手作りマスクで地域貢献

社会福祉法人謙心会 手作り布マスク寄贈



市内で介護サービス事業所を運営している社会福祉法人謙心会(加治屋)より、地域貢献・社会貢献の一環として、理事長をはじめとする有志の方が手作りした布マスク 150 枚が寄贈されました。

寄贈された布マスクは、浴衣地で丁寧に作られたもので、住民の方と直接接する機会のある市の高齢者支援事業などで活用されました。

5/19

こだわりの布製マスク

JUKI 株式会社大田原工場 布製マスク寄贈

市内に工場がある JUKI 株式会社大田原工場(北金丸)の伊藤修一工場長より、新型コロナウイルス感染症の予防に役立ててもらいたいと、布製マスク5,400枚が寄贈されました。

大田原工場で作っているミシンを使用し、生地にもこだわり、児童生徒用に大きさや装着のしやすさなどが工夫されたマスクです。消毒や検針なども行い衛生管理も徹底されています。寄贈されたマスクは市内小中学校の児童生徒に配布されました。



5/20

消毒液の代替品として活躍中

渡辺酒造株式会社 菊の里酒造株式会社
高濃度アルコール寄贈

店頭などで消毒用エタノール製品の品薄状態が続くなか、市内に酒蔵をもつ渡辺酒造株式会社(須佐木)、菊の里酒造株式会社(片府田)より、消毒用エタノールの代替品として手指消毒に使用できる「高濃度アルコール」1.8ℓ 184本、500ml 100本が寄贈されました。

いずれも原料は醸造アルコールですが、ラベルに「飲用不可」表示のうえ市内医療機関と小中学校へ配布されました。そのほか市有施設でも活用しています。

5/21

ふるさとのためにできること

ふるさと大使 大島美幸氏 マスク寄贈

本市ふるさと大使の大島美幸氏(お笑いトリオ「森三中」でも活躍)より、新型コロナウイルスの感染防止に役立ててほしいと、不織布マスク3万枚が寄贈されました。

宅配便で届いたマスクは、大島氏の意向により、市内医療機関や小中学校、学童保育館などに配布したほか、妊娠届の提出のために市役所を訪れた妊婦の皆さまにも配布しています。



市史編さんだより vol. 1

民俗部会調査速報①
～マチバとザイ～

今月号から隔月で、各部会の調査成果をお伝えします。

私事から始めることをお許しください。筆者が生まれ育ったのは旧湯津上村の湯津上地区で、よく「ザイ」と呼ばれていました。それに対して、旧黒羽町や旧大田原市は「マチバ」と呼んでいました。

子どものころは「マチに行く」といえば旧黒羽町でした。映画館（東毛座）や葉煙草の専売公社がありました。

映画は、正月2日にお年玉を握りしめ、約4キロの旧東野鉄道跡の道（「汽車道」と言いました）を歩いて見に行きました。

専売公社には、耕運機（テラー）にリヤカーを括り付けて荷台にし、葉煙草を山積みにして運びました。

夏から秋と手伝いをした子どもにとっても、葉煙草の納付日は、手伝いのお礼に「志那そば」（ラーメン）が食べられるのでワクワクしました。葉煙草の売買は現金取引だったので、納付日は、親たちも「大盤振る舞い」だったので、那珂川の花火大会には、テラーが自動車の役目を持ちました。

旧大田原市は七夕祭りが楽しみでした。湯津上村の湯津上地区に生まれ育った筆者には、今の宇都宮に行く感覚で、荒町通りの七夕飾りの豪華さに圧倒されたものです。

旧『大田原市史』に「むしろ孤市こいち」が記録されていますが、おそらく、筵むしろや箕などの農具を売買する市があったと思われます。また、旧黒羽町には貯木場があったり、旧大田原市には営林署があったりと、八溝の林業を支えていました。

このように、「マチバ」と「ザイ」は、物流や経済活動を通して、地域のくらしや文化を育みました。

民俗部会では、昭和30年代以降のくらしを記録しています。皆さまの日々のくらしの資料や思い出をお寄せください。

（民俗部会長 木村康夫）

問 文化振興課 本 4階 TEL (23) 3135



荒町通りの七夕祭り(昭和42年)

一 おたわら令和の名木選④一

問 農林整備課 本 4階 TEL (23) 8813

今月で紹介する樹木は、練貫のエノキ（練貫）、共存道場跡地のハリギリ（両郷）、不動院のカヤ（久野又）の3本です。

国蝶オオムラサキの幼虫は、エノキの葉をエサに成虫となり、やがて美しい姿を現します。練貫のエノキにもオオムラサキの卵があったそうなので、その優美な姿を見ることができるともかもしれません。一度訪れてみてはいかがでしょうか。大樹の木陰でひと休みするのも優雅なひと時かと思えます。

詳しい場所などについては、市ホームページをご覧ください。



練貫のエノキ



共存道場跡地のハリギリ



不動院のカヤ